

第 13 回 東北地方交通審議会 議事要旨

日時：平成 22 年 3 月 23 日（火） 13：00～15：00

会場：仙台国際ホテル 2 階「平成」

出席委員：

幕田	会長	
清水	委員	
奥村	委員	
熊谷	委員	
澤田	臨時委員	
佐藤（健）	臨時委員	
西條	臨時委員	
倉茂	臨時委員	
佐藤（昭夫）	臨時委員	
湯村	臨時委員	
神崎	臨時委員	
高橋	臨時委員	
久保	臨時委員	
三村	臨時委員	（小林 企画政策部次長）
達増	臨時委員	（佐々木 交通政策参事）
村井	臨時委員	（藤井 企画部次長）
吉村	臨時委員	（加藤 土木部交通政策課長）
佐藤	臨時委員	（須藤 生活環境部生活交通課長）
奥山	臨時委員	（横山 都市整備局理事）

（ ）は代理出席者。

会議次第

1. 開 会
2. 議 題
 - (1) 東北地方交通審議会答申(H17.3.24)のフォローアップ
 - (2) 東北観光基本計画のフォローアップ
 - (3) 東北公共交通アクションプランの策定について
3. 閉 会

添付資料

- | | |
|------------|--|
| 資料 1 | 東北地方における交通・観光等に関する現況 |
| 資料 2 | 答申施策の進捗状況（フォローアップ結果）
＜東北地方における望ましい交通のあり方＞ |
| 資料 3 | 答申施策の進捗状況（フォローアップ結果）
＜東北観光基本計画＞ |
| 資料 4 | 東北公共交通アクションプラン（案） |
| 資料 5 | アクションプラン（案）の具体的取組 |
| 参考資料 1 | 東北地方における交通・観光等に関する現況 |
| 参考資料 2 - 1 | 東北地方における望ましい交通のあり方 |
| 参考資料 2 - 2 | 詳細編＜交通＞ |
| 参考資料 3 - 1 | 東北観光基本計画 |
| 参考資料 3 - 2 | 詳細編＜観光＞ |
| 参考資料 4 | 利用者アンケート調査結果（抜粋） |

議事要旨

1. 開 会

東 北 運 輸
局 長

本日は年度末のお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様方には日頃より行政全般にわたりまして格別のご理解とご協力を賜りまして、この席をお借りして、厚く御礼申し上げます。

東北運輸局は5年前にご答申いただきました「東北地方における望ましい交通のあり方」、「東北観光基本計画」に則って、取り組んでいるところでございます。

行っている施策がいただいた答申の趣旨を踏まえたものとなっているかにつきましては、不断の検証が必要でございます。今年は17年にいただいた答申から半期が経過するという節目に当たっており、社会情勢に合わせた施策の重点化も必要になってきております。

「少子高齢化」「人口減少」「長期債務」といった不安要因は東北地方では特に顕著となっており、交通においては少子高齢化、モータリゼーションの進展により、公共交通をめぐる環境が厳しさを増す中、地域活性化法による取組み、「交通基本法」制定に向けた動き等がございます。

また、観光では「観光圏整備法」による取組みがなされているところですが、観光立国推進の取組みを加速することが必要でございます。

本年12月には東北新幹線「新青森駅」、来年早々にはセントラル自動車の操業開始が予定される等、運輸行政に大きな影響を及ぼす明るい話題もございます。

本審議会においては、いただいた答申が確実に実施されているかフォローアップしていただくとともに、今後5年間に重点的に取り組むべき東北公共交通アクションプランにつきましてもご意見をいただきたいと考えております。様々な立場から委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2. 議 事

(1) 東北地方交通審議会答申(H17.3.24)のフォローアップ

(資料1、資料2、参考資料2-2に基づき事務局(企画観光部長)より説明)

幕 田 会 長 資料1の8ページのグラフについて、左右の目盛りは逆ということでよいのか。

事 務 局 ご指摘の通り左側が全国、右側が東北地方になる。

(交通企画課長)

清 水 委 員 高齢化社会における生活の場面と観光において、今後地方鉄道や路線バス、コミュニティバス等の公共交通の役割が相当高くなると思っており、ぜひご支援をよろしくお願い申し上げたい。

特に地方鉄道を中心に経営は極めて厳しい状況にあり、交通事業者のみの経営努力に委ねると最終的には廃止や縮小を免れないため、行政による公共交通の足の確保が地域における重要な課題であるという認識を持っていただきたい。

また、公共交通が高齢化社会や特にシニア層での観光にいかに不可欠であるかという点についてデータも散見されるため、それらの披露もよろしくお願い申し上げたい。以前ご紹介いただいた、公共交通、特に地方鉄道の沿線市町村と、地方鉄道が廃止された元沿線市町村における人口減少の比較で、地方鉄道が地域の衰退のガードとなっているといったデータ等を引き続きご紹介いただければ、公共交通に対する認識が高まるのではないかと。

事 務 局 清水委員からいただいたご意見について、本日お手元に「東北ローカル線の再生」というDVDを配布させていただきました。これはなぜローカル線が赤字なのか、鉄道が廃止されると地域がどうなってしまうのか、鉄道の地域活性化への貢献、東北の14の鉄道会社が奮闘する姿等をまとめている。

(鉄道部長)

鉄道と人口減少の関係や、三陸鉄道の経済効果試算等、客観的にデータと事例で整理しているため、関係者へのご紹介等もお願いしたい。

神 崎 委 員 資料2の32ページ、エコ通勤の優良事業所認定制度について、認定を受けた事業所には排出権取引のようなメリットがあるのか、教えていただきたい。

事業所のメリットを出さないとなかなか認定事業所が出てこない。特に東北の場合は土地が十分にあるため都市圏に比べて駐車料金が安く(公共交通利用へのハードルが高いため)、税制や排出権取引等でのようなメリットが出てくるのか。

事務局 (企画観光部長)	十分なメリットであるかは別として、認証を受けるとホームページ等で広く周知される他、登録証が交付され、マークの使用が許可されることになる。
事務局 (交通環境部長)	只今お答えした内容を若干補足したい。排出権取引等は現在のところは認定制度とつながっていないが、排出権取引については検討がなされているところであり、試行している事業者もある。 (エコ通勤等の)いろいろな取組みを進めている方々が将来的には様々な仕組みの中でメリットが見出せるといいと考えている。
神崎委員	トラック事業者のGマークの認証、グリーン経営等の認証も進めているところだが、企業としてはコストがかかるため、ある程度メリットを与えないと難しいのではないかと。一生懸命やっている企業とやっていない企業でどう差が出てくるのかといった点も、ご検討いただきたい。
事務局 (交通環境部長)	情報提供になるが、グリーン購入法という法体系が出来ており、公共団体が購入するときに環境に配慮したものやグリーン経営等の認証を受けている事業所のものを積極的に使っていくという方向を、より強化して進めていきたい。
久保委員	地球環境問題に関連してモーダルシフトについてはどのような取組みがなされているのか。
事務局 (交通環境部長)	モーダルシフトについては、グリーン物流パートナーシップにより、トラック輸送から鉄道、船舶輸送への移行に関して NEDO のシステムを活用しサポートする仕組みがある。 残念ながら東北では採択されている事業者の数がまだ少ないため、モーダルシフトの必要性を荷主に理解していただけるよう、今後も実施していかなければならないと考えている。

(2) 東北観光基本計画のフォローアップ

(資料3、参考資料3-2に基づき事務局(企画観光部長)より説明)

清水委員	東北における観光の現状は非常に厳しく、特に平成20年には宿泊者がかなり落ち込んでいるところが問題と思う。外国人観光客についても、全体的に円高、ウォン安等の関係で落ち込んでいるが、東北の魅力を活かしてもっと頑張るべきであろう。 特にインバウンドの関係についてはもっと東北が一体となった施策を推進していかなければならないことと、合わせて宿泊施設の魅力向上を図るため、官民の連携協議会を設立していただきたい。
------	--

東北観光推進機構や各県の取組みだけにまかせず、アイデアや材料を結集させる場を作ることを提案したい。

事務局
(企画観光部長) 現在、東北における観光振興を戦略的に進めていくための意見交換の場としての「官民協議会」の設立について内々に検討を進めている。今後、具体的な成案を得た段階で、関係方面にはご相談させていただきたく、ご理解、ご支援の程、引き続きお願い申し上げます。

澤田委員 青森県の場合、夏季と冬季の時期によって観光客の変動が激しいと思うが、そういった数字はあるか。

事務局
(企画観光部長) また、インバウンドについて全国値の5%を目標としているようだが、この数字についてはどのように考えているのか。

事務局
(企画観光部長) ご指摘の通り冬季の観光客数がかなり少ないという点は、ご指摘のとおり定量的にも確認しうるところだが、冬を東北の弱みと捉えるのではなく、東北ならではの魅力に触れることができる、というセールスポイントとして、むしろ強力にアピールしていきたいと考えている。

本件については、ピジットジャパンキャンペーンの地方連携事業として、昨年9月には「東北の冬」をテーマにプロモーションを行っているとともに、22年度においても実際に冬の時期に海外主要市場の旅行エージェント等を招請することを考えている。

また、5%については一つの目安としているが、全国ベースの実績がダウンしている状況の下で、東北の数字が極端に少ないとは考えていない。平成22年は目標達成に向けた区切りの年ともなるため、東北全体の認知度の向上、誘客の促進に戦略的に取り組むことを通じて、数字の上積みを着実に図りながら、成果を少しずつ出していきたいと考えている。

神崎委員 休日の変更等検討されているが、東北運輸局として本省に休日構成についての意見を言われているのか。

事務局
(企画観光部長) 一部の期間に観光客が集中しないような休日構成については、国全体として、色々な手法を工夫しうると考えられる一方で、本件については国民の理解を得ることが重要であるため、国民全体に及ぼす影響等にも留意しつつ、慎重な検討が求められる旨を伝えている。

奥村委員 国全体で観光客の量が減っているため、量より質を目指すべきではないか。

資料1の統計にあったように、日帰りの数が宿泊者数よりも多く、しかもそれほど減少していない。つまり、他の地域から来てもらう観光客は減少しているが、東北地方内での観光は安定している。

観光というと、外から来た人にお金を落としてもらえばよいように思

えるが、地域の中の産業や人の生活の厚みがないと長期的には難しい。人材育成についても観光産業だけでなく、地域の生涯学習や生活、産業の厚みを増やしていくことと合わせて考えていただきたい。

もう一つは二次交通について。観光の二次交通は重要であるが、観光客は季節性が大きく、交通サービスを常に提供することはかなり難しい。一つの方法として、観光のサービスと生活交通のサービスを一緒に提供するようなことを考えてよいのではないかと。

山形県尾花沢の銀山温泉には奥羽線の大石田駅から市バスが走っているが、観光客だと500円程度、地元の方はワンコイン(100円程度)のように運賃に差がある。観光客にとってはタクシーよりも安ければ利用可能性がある。このような、観光の力で地域の交通を支えていただくという考え方もありえるので、東北地方としてはもう少し研究する必要があるのではないかと。

また、高齢者に席を譲って「いいことをした」という満足感を得るのも一つの魅力かと思う。合わせ技で密度の低い地域の交通を考えていただければと思う。

事務局

(企画観光部長)

観光のあり方そのものが変化している中、地場の産業を観光資源として、地域住民の生活にじかに触れ、これを体験するという観光形態が注目を浴びている。こうした状況の下、ご指摘の点も含め、地域における観光資源の実質的な内容を充実させていくという正攻法のアプローチが必要であると考えている。

また、地域公共交通の維持確保について、様々な利用者がそれぞれ公共交通をどのような立場で利用するのか、その意味合いを十分考慮しつつ、柔軟な運賃設定を行うとともに、観光客による利用を促進することを通じて地域の生活交通を支えていくという工夫も非常に重要になってくると考えている。ご指摘の事例も含め、様々なケースについて積極的に情報収集し理解を深めながら、参考になりうる事例については、幅広く情報発信していきたい。

(3) 東北公共交通アクションプランの策定について

(資料4、資料5に基づき事務局(企画観光部長)より説明)

高橋委員

公共交通の地方活性化について、市場経済を万能とするのではなく、「誰でも、いつでも、どこへでも」「安全で快適な」移動手段となりえる社会的装置を目指していただきたい。

事務局 (交通企画課長)	2点目に、まちづくりと公共交通の密接な連携について、行政や住民、事業者等の連携をとり、できればモデル地域等を設定し、実現に向けて努力していただきたい。
幕田会長	いただいたご指摘を踏まえながら、公共交通について活性化・再生していきたい。 それではただいま提案があった「東北公共交通アクションプラン」について決定ということによろしいか。 (異議なしの声) それではこれで決定とさせていただく。いただいたご意見を交通行政、東北行政に活かしていただきたい。

3. 閉会

事務局 (交通企画課長)	以上をもちまして、第13回東北地方交通審議会を閉会とさせていただきます。 本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。
-----------------	---

〔了〕